



[野菜部門]

[農業研究所ホームページへ](#)

14. イチゴのナミハダニに対する薬剤の防除効果

[要約]

イチゴに発生するナミハダニは、多くの薬剤に対して薬剤感受性が低下しており、効果的な薬剤は減少している。現時点でマイトコーネフロアブルとダニオーテフロアブルの効果は高いが、薬剤感受性の低下を防ぐために連用は避ける。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 病虫研究室

[連絡先] 電話 086-955-0543

[分類] 情報

[背景・ねらい]

ナミハダニは薬剤抵抗性が発達しやすく、効果の高い薬剤が年々減少傾向にあり、県内のイチゴ産地ではナミハダニの防除に苦慮している。そこで、主要産地のイチゴに発生するナミハダニに対する薬剤の効果を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. ピラニカEWの殺雌成虫率は、すべての圃場で低く、殺卵率も半数以上の圃場で低い（表1、表2）。
2. バロックフロアブルの殺卵率は、ほとんどの圃場で低い（表2）。
3. コロマイト水和剤、コテツフロアブル、スターマイトフロアブル、ダニサラバフロアブル及びダニコングフロアブルの5剤の殺卵率は一部の圃場で高かったが、殺雌成虫率はほとんどの圃場で低い（表1、表2）。
4. アファーム乳剤は効果の高い圃場もみられたが、全般的に殺雌成虫率及び殺卵率は低い（表1、表2）。
5. カネマイトフロアブルの殺卵率はすべての圃場で高いが、殺雌成虫率は半数の圃場で低い（表1、表2）。
6. マイトコーネフロアブルとダニオーテフロアブルの殺雌成虫率、殺卵率はほとんどの圃場で高い（表1、表2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 薬剤感受性の低下を防ぐために、IRACコードを確認して同一系統の薬剤の連用は避け、ローテーション防除に努める。
2. ミヤコカブリダニなどの天敵を積極的に活用するなど、化学農薬への依存度が少ない防除を実施する。



[具体的データ]

表1 イチゴに発生するナミハダニ雌成虫に対する各種薬剤の効果(2019年)

IRAC コード	供試薬剤名(剤型)	希釈倍数	殺雌成虫効果 ^z							
			岡山①	岡山②	岡山③	東備	倉敷	井笠①	井笠②	津山
6	アフーム(乳剤)	2,000	◎	×	×	◎	△	×	×	×
6	コロマイト(水和剤)	2,000	×	×	×	◎	×	×	×	×
13	コテツ(フロアブル)	2,000	×	△	×	◎	×	×	×	×
20B	カネマイト(フロアブル)	1,000	×	×	◎	◎	○	◎	×	×
20D	マイトコーネ(フロアブル)	1,000	◎	◎	◎	◎	◎	◎	×	◎
21A	ピラニカEW	2,000	×	×	×	×	×	×	×	×
25A	スターマイト(フロアブル)	2,000	×	×	×	△	×	×	×	×
25A	ダニサラバ(フロアブル)	1,000	×	×	×	△	×	×	×	×
25B	ダニコング(フロアブル)	3,000	×	×	×	○	×	×	×	×
-	ダニオーテ(フロアブル)	2,000	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

^z ◎は補正死虫率90%以上、○は89~80%、△は79~70%、×は69~0%

表2 イチゴに発生するナミハダニ卵に対する各種薬剤の効果(2019年)

IRAC コード	供試薬剤名(剤型)	希釈倍数	殺卵効果 ^z							
			岡山①	岡山②	岡山③	東備	倉敷	井笠①	井笠②	津山
6	アフーム(乳剤)	2,000	◎	×	×	◎	×	×	◎	×
6	コロマイト(水和剤)	2,000	◎	×	×	◎	○	×	×	◎
10B	バロック(フロアブル)	2,000	×	△	×	◎	×	×	×	×
13	コテツ(フロアブル)	2,000	△	×	○	×	◎	○	×	×
20B	カネマイト(フロアブル)	1,000	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
20D	マイトコーネ(フロアブル)	1,000	×	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎
21A	ピラニカEW	2,000	◎	◎	×	×	△	×	×	×
25A	スターマイト(フロアブル)	2,000	◎	×	×	◎	△	×	◎	×
25A	ダニサラバ(フロアブル)	1,000	×	×	×	◎	◎	△	×	×
25B	ダニコング(フロアブル)	2,000	◎	×	×	○	○	○	×	◎
-	ダニオーテ(フロアブル)	2,000	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

^z ◎は補正殺卵率90%以上、○は89~80%、△は79~70%、×は69~0%

[その他]

研究課題名：イチゴの天敵利用栽培における微小害虫防除体系の確立

予算区分・研究期間：交付金・令元～3年度

研究担当者：西優輔、長森茂之、佐野敏広、難波加奈

関連情報等：1) 試験研究主要成果、[平 19](#)

2) 西ら(2021) 関西病虫研報、63:21-25